

28年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年 1月1日～ 28年1月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
1月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/1月	2月	3月
入荷動向	スギ	10.0	0.0	10.0
	ヒノキ	△ 7.1	△ 7.1	0.0
	カラマツ	△ 50.0	50.0	50.0
	トドマツ	25.0	25.0	25.0
消費動向	スギ	15.0	5.0	5.0
	ヒノキ	7.1	0.0	7.1
	カラマツ	100.0	100.0	100.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	25.0
在庫動向	スギ	11.1	16.7	11.1
	ヒノキ	0.0	0.0	14.3
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ原木の入荷は1月の増加が、2月は横ばい、3月は再び増加。ヒノキは1月、2月の減少が、3月は横ばい。カラマツは1月の減少が2月、3月は増加。トドマツは3ヵ月連続して増加。

・スギ原木の消費は3ヵ月連続して増加。ヒノキは1月の増加、2月の横ばい、3月は再び増加。カラマツは3ヵ月連続して増加。トドマツは1月の減少が、2月は横ばい、3月は増加。

・スギ原木の在庫は3ヵ月連続して増加、ヒノキは1月、2月の横ばいが3月は増加。カラマツは1月、2月の減少が、3月は増加。エゾ・トド

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	28/1月	2月	3月
スギ	△ 10.0	△ 10.0	△ 5.0
ヒノキ	7.1	7.1	△ 7.1
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ原木の価格はやや弱含みで推移。ヒノキは1月、2月のやや強含みが、3月はやや弱保合。カラマツ及びエゾ・トドは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

' (原木荷動き)

・暖冬、間伐遅れ等の理由でカラマツ素材の入荷は予定を下回っている。カラマツは産業用途向けで使用量が増えている（北海道）。

・原木入荷増の見通し。冬季は凍結で減産の見通し（関東）。

・原木在庫が少し多いので入荷はやや減少、まず原木を消化していく。製材動向は稼働日数で変動（中部）。

・天候次第だが入荷は減ると予想、3月頃から増える見込み。消費は1月、2月は12月並、3月は増える見込み。原木の出材状況にもよるが在庫は1月、2月は減る見込み（中国）。

・天候良いのでそこそこ入荷順調。消費は冬季のため能力が落ちることもあり。少しずつではあるが、伐り時期の原木を在庫していく（中国）。

・雪も降らず順調に出材がある。暖かいため凍結材もなく順調に製材できるが、注文のほうはボチボチといったところ。ヒノキの在庫が少なくなりつつある、少し積み増したい（中国）。

・暖冬で積雪もなく、多量の出材が見込めるのでは（九州）。

(原木価格)

・トドマツ丸太、変わる見込みなし（北海道）。

・スギは出荷増で下落見通し（関東）。

・雪の影響が少なく価格は変わらず（中部）。

・天候にもよるが、基本的には1～2月は上昇する見込み（中国）。

・製品の価格の割には高いのでは（中国）。

・今後の天候次第であるが、現状のまま推移する見込み（中国）。

・出材は多量にあるが、大型工場やバイオマス等の下支えによりある程度の価格はキープできるのでは（九州）。

28年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/1月	2月	3月
生産動向	スギ	15.0	5.0	△ 5.0
	ヒノキ	0.0	△ 7.1	△ 14.3
	カラマツ	100.0	100.0	100.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 25.0	0.0
出荷動向	スギ	20.0	△ 5.0	10.0
	ヒノキ	7.1	△ 7.1	14.3
	カラマツ	100.0	100.0	100.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 16.7	△ 5.6	0.0
	ヒノキ	△ 7.1	△ 14.3	△ 7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ製材品の生産は1月、2月の増加が、3月は減少。ヒノキは1月の横ばいが、2月、3月は減少。カラマツは3ヵ月連続して増加。トドマツは1月、2月の減少が3月は横ばい。

・スギ及びヒノキ製材品の出荷は1月の増加が、2月はやや減少、3月は再び増加。カラマツは3ヵ月連続して増加。トドマツは1月、2月の減少が3月は横ばい。

・スギ製材品の在庫は1月、2月の減少が、3月は横ばい。ヒノキは3ヵ月連続して減少。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		28/1月	2月	3月
スギ	柱角 KD10.5×3	0.0	△ 5.0	0.0
	柱角 KD12×3	△ 10.0	△ 10.0	△ 10.0
	通し柱 12×6	8.3	8.3	0.0
	桁角	0.0	△ 5.6	△ 5.6
	母屋角	0.0	△ 5.6	△ 5.6
	タルキ	0.0	△ 6.3	△ 6.3
	間柱	10.0	△ 5.0	△ 5.0
	ヌキ	△ 6.3	△ 6.3	△ 6.3
	平割	△ 6.3	△ 6.3	△ 6.3
	ラミナ	△ 8.3	△ 10.0	△ 10.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	0.0	0.0	7.1
	柱角 KD12×3	△ 14.3	△ 14.3	△ 7.1
	土台角 10.5×4	0.0	0.0	8.3
	土台角 12×4	△ 7.1	△ 7.1	0.0
	通し柱 12×6	0.0	0.0	12.5
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ柱角は総じて保合ないしやや弱含み。通し柱はやや強含み。桁角、母屋角及びタルキは1月の横ばいが、2月、3月はやや弱含み。間柱は1月のやや強保合が2月、3月はやや弱含み。ヌキ、平割及びラミナはやや弱含みで推移。

・ヒノキ柱角は、10.5cm角は横ばいしないしやや強保合、12cm角はやや弱含みで推移。10.5cm土台角は横ばいしないしやや強保合、12cm角はやや弱含みないし横ばい。通し柱は1月、2月の横ばいが、3月はやや強含み。ラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナは3ヵ月連続して横ばいで推移。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・産業用途向けの生産は多忙（北海道）。
- ・雪は少ないが、気温は低い林道は凍結。運材は今のところ順調。冬季に入り挽き立ては落ちる。入荷と挽き立てはバランスが取れている（北海道）。
- ・厳冬期で一番生産が落ちる時、稼働日数も完全土日休日のため少ない。今年はオリンピックに向けての需要期待。出荷した分生産で、在庫は横ばい（北海道）。
- ・販売増で在庫減。引合増で出荷増、ヒノキは出荷増で在庫減（関東）。
- ・ラミナ在庫減少のため生産に注力、2月以降の注文は薄い。昨年末の受注残あり、当月～2月初旬は忙しい。在庫少ないため積み増しする（関西）。
- ・販売状況にもよるが、生産は基本的には横ばい。出荷は1月、2月は12月並、3月は増えると予想。在庫は1月～3月は増える見込み（中国）。
- ・生産に特に変化なし。出荷に力強さはないが、低位安定である。製材数量が多少下がるので在庫もそれ程増えないと思われる（中国）。
- ・順調に生産、注文はポチポチといったところ。12月より若干荷動きが良くなったよう。荷動きが良くなったため在庫は減ってきた。これから製品を積み増ししたい（中国）。
- ・プレカットの稼働が好調をキープできれば、それなりの荷動きが期待出来る（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- トドマツサング、丸太価格次第（北海道）。
- ヒノキ10.5cm角中心の引合、12.0cm角は不振（関東）。
- スギ、ヒノキ共荷動きは悪くはないが、相場への影響は感じられず（関西）。
- ヒノキは1月～2月は横ばい、3月からやや上昇と予想（中国）。
- スギ荷動きは決して良くはないが、悪すぎるほどではない。ヒノキ4寸角は売りづらい（中国）。
- スギ値上がりは難しい。ヒノキはもう少し上げたいが困難（中国）。
- スギ単価上げるほどの需要はない（九州）。

28年1月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/1月	2月	3月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ	—	—	—
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	50.0	100.0
	NZラジアータ	—	—	—
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	—	—	—
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の仕入れは1月、2月の横ばいが、3月は減少。

・米マツ丸太の消費は1月の減少が、2月、3月は増加。

・米マツ丸太の在庫は1月、2月の増加が、3月は横ばい。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/1月	2月	3月
米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	—	—	—
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の価格は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(原木荷動)

(原木価格動向)

28年1月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/1月	2月	3月
生産動向	米マツ製材品	△ 50.0	50.0	100.0
	NZラジアータ製材品	—	—	—
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 100.0	0.0	100.0
	NZラジアータ製材品	—	—	—
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	100.0	100.0	0.0
	NZラジアータ製材品	—	—	—
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は1月の減少が、2月、3月は増加。

・米マツ製材品の消費は1月の減少が、2月は横ばい、3月は増加。

・米マツ製材品の在庫は1月、2月の増加が、3月は横ばい。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		28/1月	2月	3月
米マツ平角		0.0	0.0	0.0
米マツ正角		0.0	0.0	0.0
米マツ小割		0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		—	—	—
NZ梱包材(割角)		—	—	—
NZ土木用材		—	—	—
その他		—	—	—

・米マツ平角、正角及び小割の出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

(製材品出荷価格動向)